戦前期外地の文化機関を中心とした絵葉書一覧　Ⅱ. 大連

岡村敬二編

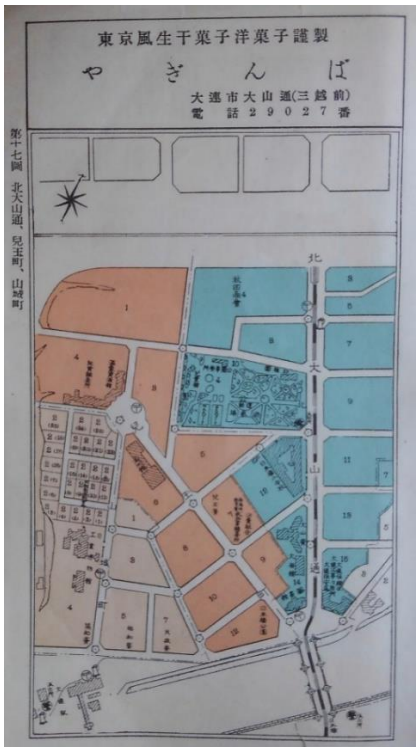
南満洲鉄道株式会社は、日露戦争後の明治 39（1906）年 11 月に設立された。鉄道事業と鉄道沿線の附属地の諸事業を経営する目的での設立であるが、鉄道沿線の附属地は広大で、その事業は広範にわたった。それは炭鉱や製鋼所など鉱工業から、病院・港湾・電力会社・ホテルなどさらには図書館などの文化機関にまでおよぶ。沿線各都市の自治体をまるごと経営したことになる。

その後、昭和 6（1931）年 9 月の満洲事変、翌年 3 月の満洲国建国などを経て昭和 12 年 12 月には鉄道附属地の行政権が満洲国に移管され、諸施設と合わせて職員も満洲国に移籍となった。図書館を例にとれば、鉄道経営のための参考図書館の性格を持つ大連・奉天・哈爾浜などの図書館は遺されたが、他の沿線諸都市の図書館は満洲国に移管され、満洲国の経営する図書館として終戦まで続いた。

参考までに、葉書写真の場所を示す地点を、『大連市案内圖 昭和十三年十月現在』（高橋勇八著 大陸出版社 昭和 14 年 6 月）で示した。詳細な住宅地図であり参考になることと、国内図書館にあまり所蔵のない資料だからである。また個々の建物などは、秦源治ら著『大連ところどころ』（晃洋書房 2018 年）に説明がある。

大連 1「大連交通ノ中心日本橋」。跨線橋。ロシア風の街に続く。右手に見える建物は旧日本橋図書館。日本橋図書館については『資料展示図録 満洲の図書館』に新旧建物を示して概説している。

大連 2「大連ノ名所日本橋」。左手の建物が旧日本橋図書館。いま門司に模造されたものが建っている。

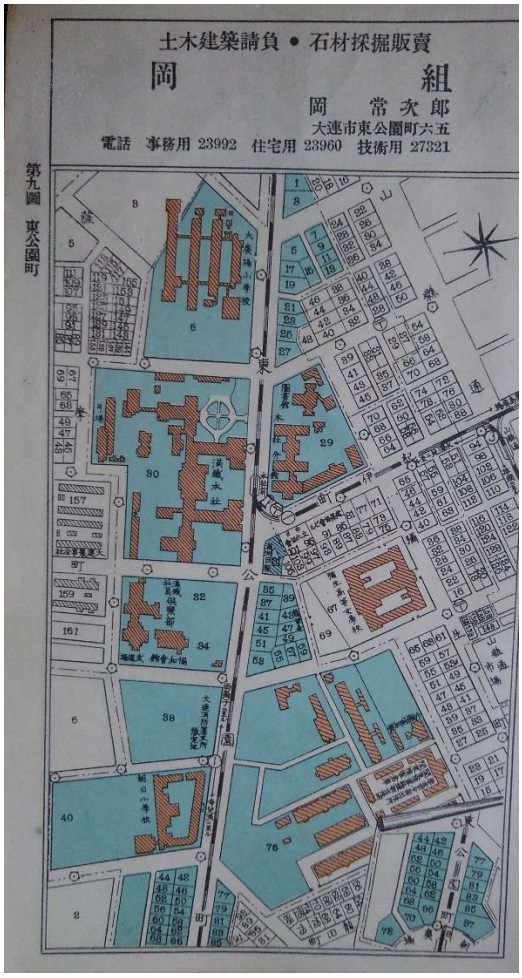


大連 2-1（参考） 北大山通りに日本橋図書館・北公園、児玉町に満蒙資源館地質研究所が見える（『大連市案内図』第 17 圖）。

大連 3「大連満鉄社員倶楽部西門」。満鉄本社の西にある。満鉄の社風をうかがわせる建物である。

大連 4「(大連) 満洲平野の生命を制する満鐵本社の景観」。大広場から東へ続く東公園町にある。

大連 5「南満洲鐵道株式會大連本社」。本社の向かいに大連図書館、その先の路面電車が左に曲がる角には、満洲日報社、中日文化協会があった。



大連 5-1（参考） 満鉄本社、社員倶楽部、大連図書館などが示される（『大連市案内図』第 9 図）

大連 6「大連児玉町の満蒙資源館」。ロシア当地の時代は市役所、満鉄本社・ヤマトホテルなどにも使用された。

大連 7「大連満鉄中央試験所」。伏見町の狭衣高等女学校の隣に建つ。

大連 8「大連磐城町の夜景 大連中央試験所」。大連駅からは連鎖街・磐城町・伏見町と続く。

大連 9「大連博品館内部の工事中」

大連 10「大連近江町満鉄社員宿舎」。近江町は西広場から南へ延びるがここに洋風の二階建て社員用住宅が建てられた。住宅には甲乙丙の区分があった。ここから東本願寺・西本願寺・大連神社と続く。その南東あたりが南山麓といわれる高級住宅街にでる。満鉄社宅は寺児溝にもあった（金澤求也『南満洲寫真大觀』満洲日日新聞社印刷部 1911 年）。

大連 11「大連憲兵分隊ト関東軍倉庫」。憲兵隊は植民地にも設置され、主に軍事警察の任についた。

大連 12「大連憲兵分隊ト関東軍倉庫」。11 のモノクロ版。ロシア時代の商業学校の一部である。

大連 13「（大連）堂々たる偉観を呈す関東州庁」

大連 14「大連 明朗の行政府、関東州庁の偉観」。昭和 9（1934）年 12 月に関東庁は廃止となり新京の関東局に継承され、大連にはこの関東州庁がおかれた。

大連 15「大連 関東州庁 堂々たる庁舎の偉観」、スタンプ「昭和 13.1.16」。中央試験所の西に位置した。

大連 16「新装ナレル大連地方法院ト検察局ノ偉容」。地方法院は関東州庁に隣接してあった。

大連 17「大連彌生高等女學校校舍」。もと大連実科高等女学校。大連市立高等女学校から昭和 3 年 4 月に彌生高等女學校」と改称。満洲日日新聞の並びにあった。

大連 18「(大連) 壮麗無比、大連日本橋と其の附近」。日本橋南詰を眺める。左の建物は郵便局。

大連 19「大連港橋竝ニ大連取引所ト市街ノ一部」。取引所は東広場にあり港橋は埠頭へと続く。

大連 20「大連の郵便局と大山通り」。右手は日本橋ホテル。大山通りは大広場から日本橋、北広場に続く。

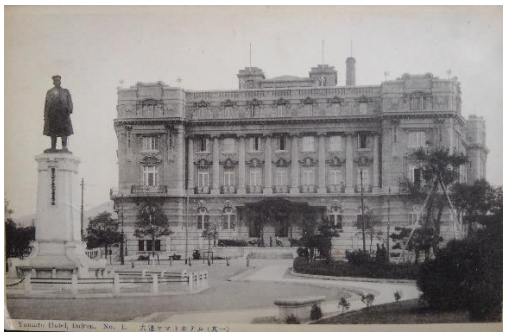
大連 21「大連山縣通り 右商船会社 左満洲重要物産の市場大連取引所」。山縣通りは大広場から東広場へと伸びる。

大連 22「大連 市街の南北を貫く主要路大山通」

大連 23「（大連）洋館厳然と竝ぶ大連大山通」

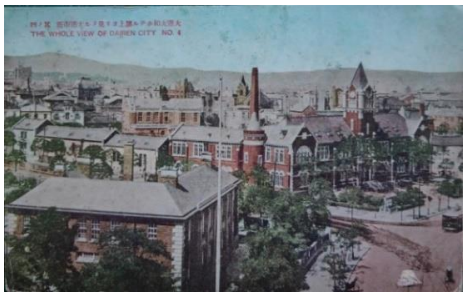
大連 24「（大連）山縣通に厳然たる税関本館」

大連 25 「大連の大廣場満鐵直営大和ホテル」。ヤマトホテルは、旧ダーリニーホテルを改装して開業、後幾度か移転改修をして大正 3 年 3 月に大広場にて開業。



大連 26 「大連ヤマトホテル（其一）。銅像は初代関東都督府総督大島義昌。

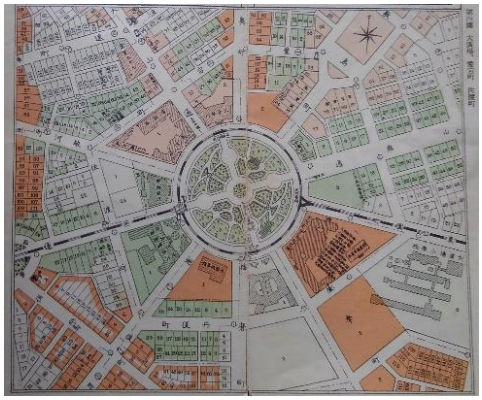
大連 27 「大連ヤマトホテル（其一）。26 と同じ写真。



大連 28「大連大和ホテル屋上ヨリ見タル大連市街 其の４)。時計回りに英国領事館、旧大連民政署か。

大連 29「大連大和ホテル屋上ヨリ見タル大連市街 其の４)。28 のモノクロ写真。

大連 30「大連大和ホテル玄関ヨリ朝鮮銀行、警察署ヲ望ム」。遠景から朝鮮銀行、元民政署の大連警察署。



大連 30-1（参考） 大広場の地図。ここにヤマトホテル・民政署・横浜正金などの建物がある。大山通りに遼東ホテルもみえる（『大連市案内図』第４図)。

大連 31「YAMATO HOTEL,HOSIGAURA」。明治 42 年開業、翌年に本館ができた。大広場のヤマトホテルとは別のリゾート風ホテル。スタンプ「大連星ケ浦ヤマトホテル 御来遊紀念 168.22」。

大連 32「大連遼東ホテル」。初代ホテルは明治 39 年 8 月に開業なったが、明治 39 年 4 月信濃町に新館を建設、多くの人士に利用されたが狭隘のため大正 8 年、通りの向かいに 3 階建ての別館を建造した。これはそれであろう。今に残る大山通りの遼東ホテルは昭和 5 年に建てられたものである。

大連 33「大連遼東ホテル」。この遼東ホテルの創始者は山田三平でその簡単な事績は『記念誌 大連開業二十年聯合祝賀會』に載る。

大連 34「大連遼東ホテル及信濃町通」。現在の遼東ホテルは昭和 5 年建築のもので大山通りにある。この旧遼東ホテルは西澤泰彦『大連歳物語』に路面電車とともに同じ建物が載るがホテルとしての言及はない。

大連 35「大連遼東ホテル新館」。これとは別に後年建った遼東ホテル 7 階には健全とされるダンスホール第七天国があった。

大連 36「(大連) 無線文明界に貢献しつゝある大連放送局の偉観」。大正 14 年 8 実験放送開始。

大連 37「大連の放送局の美観」。満洲国建国後の大同 2（1933）年には、電信電話放送を統括する特殊会社満州電信電話株式会社が新京にて設立されて大連放送局の事業も継承した。満洲時代の回春街聖徳公園（現中山公園）にあった。現在の大連放送局もこの中山公園内にある。

大連 38「大連の西広場 中央映画館と伊勢町通り」。以下 3 枚は同じ。

大連 39「大連の西広場 中央映画館と伊勢町通り」(2)。大広場の西すぐの広場、広場から北に伊勢町、南に近江町が伸びる。西広場の北側には西広場郵便局・中西医院・西広場幼稚園などがあった。

大**連 40「大連の西広場 中央映画館と伊勢町通り」(3)。**スタンプ「大連 昭和 13.1.16」。

大連 42「(カメラの大連) 現代的設備を誇る大連代表商店區連鎖街」。大連駅の南西に隣接する。

大連 43「大連ノ名所連鎖商店街常盤町」。井上ひさし『連鎖街のひとびと』の舞台となった。

大連 44「大連 連鎖街より望む常盤橋方面の景観」。右手前の建物は三越、奥へ都市交通社、電業会社。

大連 45「大連ノ常盤橋ト連鎖商店街」。常盤橋電停から西に連鎖街を望んだ写真である。

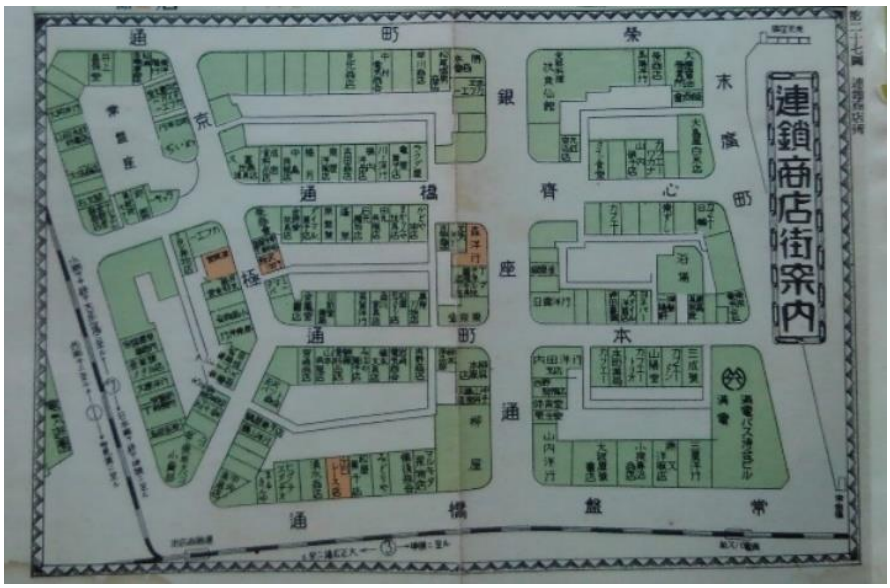
大連 46「東洋一ヲ誇ルグレート大連ノ連鎖商店街ノ全景」。常盤橋の向こうは満電のバス待合ビル。

大連 47「大連新名所連鎖街より常盤橋方面を望む」。左側（北側）二軒目に大阪屋號書店がみえる。連鎖街には他に神田書舗・東京堂・金鳳堂書店・右文閣などが入っていた。

大連 48「大連の名所連鎖街の常盤座（連鎖街の夜景）」、スタンプ「大連駅 13.1.16」。京極通側。慰問にでかけて終戦により帰国できず大連に遺された古今亭志ん生（五代）・三遊亭圓生（六代）もここに出演した。

.

大連 49「大連名所連鎖街心斎橋通りの夜景）。歓楽街、右にカフェワカナ、左に東寿司。



大連 49-1（参考） 連鎖街。中を銀座通り・心斎橋通り・京極通り・本町通りなどと名付けられた通りが走っていた。昭和 10 年刊行の地図には、北東に常盤座、西南に満電バス待合ビルがある。出版関係では、大阪屋號書店・金鳳堂書店・神田書舗などが入っていた（『大連市案内図』第 27 図）。

大連 50「大連大広場の壮観　大連大広場中央銀行附近」。ヤマトホテル屋上からの写真、正面が横浜正金銀行、左に関東逓信局・朝鮮銀行、右に中国銀行。

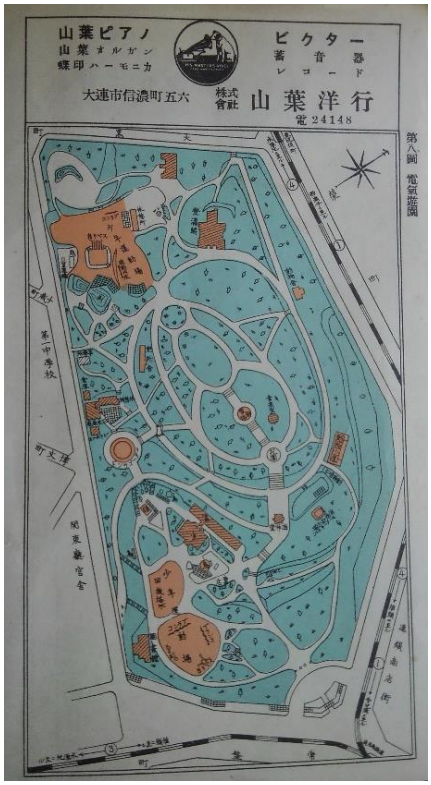
大連 51「大連市街の中心大広場の美観」。ヤマトホテル階上から。正面が横浜正金銀行、左に関東逓信局。

大連 52「大広場に巍善たる大島大将閣下の銅像」。大島大将とは初代関東都督府総督大島義昌。

大連 53「大連電気遊園温室」。連鎖街西の伏見台にあり、運動場・動物舎・メリーゴーランド・音楽堂から図書館まで備え、電飾をこらして不夜城の趣きだったという。漱石『滿韓ところどころ』にも登場する。

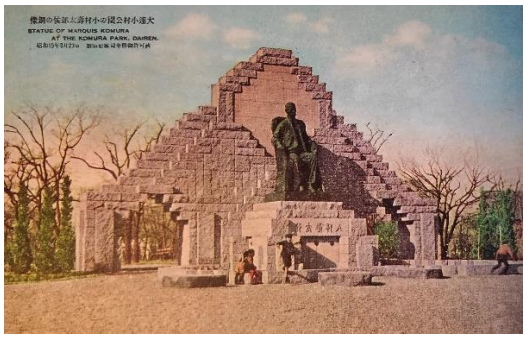
大連 5 4 「大連電気遊園」。ここには伏見台児童図書館があった。

大連 55「(大連)眺望絶佳近代的遊園地、大連電気遊園」。昭和 13 年に小村公園と改称、図書館も小村侯記念図書館と改称。



大連 55-1（参考） 電気遊園、左下に図書館とある（『大連市案内図』第 8 図）。

大連 56「大連小村公園の小村寿太郎侯の銅像」。もと伏見台電気遊園、昭和 13 年に改称。



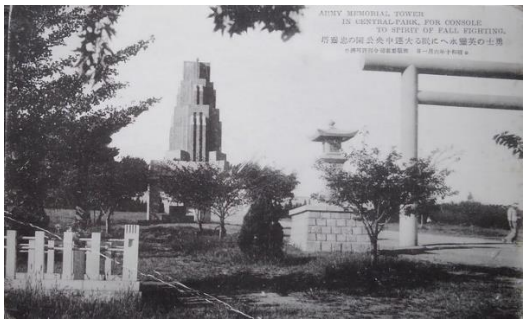
大連 57「大連小村公園の小村寿太郎侯の銅像」（２）。56 と同じもの。

大連 58「大連西公園運動場」

大連 59「大連名所電気遊園の入り口、（上図）中央公園内満人児童」、中央公園は元西公園で南山麓の西。

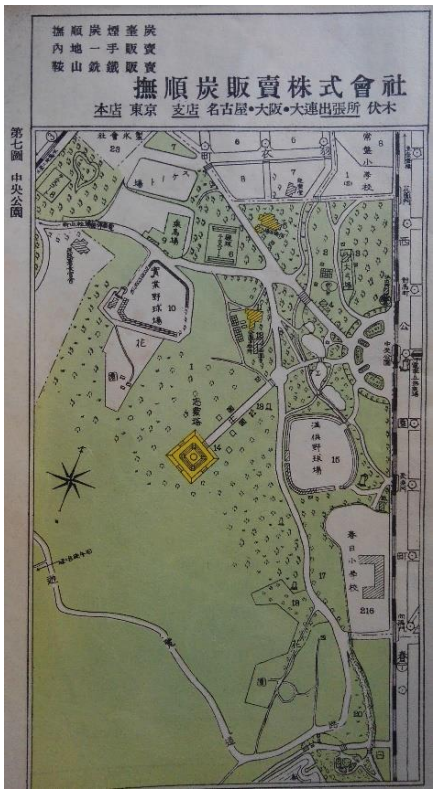
大連 60「文化施設の完備せる大連市場の偉観」

大連 61「大連満鉄グラウンド」。満鉄倶楽部（満倶）野球場。中央公園から忠霊塔に向かう左側。満鉄倶楽部は全日本都市対抗野球大会で優勝するほどの強豪チームだった。



大連 62「勇士の英霊永へに眠る大連中央公園内の忠霊塔」

大連 63「(大連) 勇士の英霊を祀る中央公園内忠霊塔」



大連 63-1（参考） 中央公園内の満倶野球場・忠霊塔など。

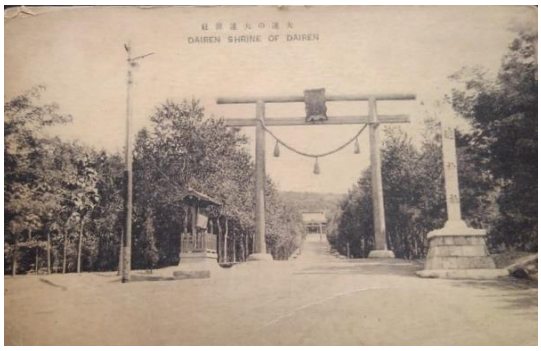
大連 64「大連聖徳太子殿」、大連放送局のあった聖徳公園内にあった。

大連 65「大連若草山、西本願寺関東別院」、東隣に東本願寺、背後の山が若草山である。

大連 66「荘厳ヲ極ムル大大連神社正殿」。創建は明治 42 年 10 月、祭神は天照大神・明治天皇ほか。

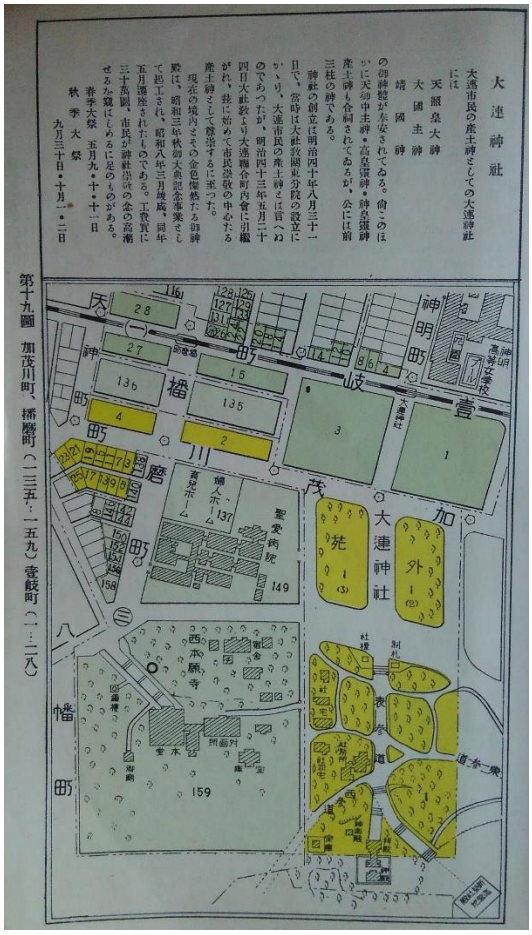
大連 67「大連神社参道」。大連神社のスタンプ。南山麓の大連神社から西へ東本願寺・西本願寺があった。

大連 68「大連神社」。戦後大連神社宮司だった水野久直が御神体を持ち帰り下関の赤間神宮内に祀った。



大連 69「大連の大連神社」。以前は大連外国語学院があり戦前期日本語資料も少し所蔵していて閲覧した。

大連 70「大連ノ大連神社」、大連外国語学院は大連外国語大学と改称しほとんどの学部が旅順に移転した。

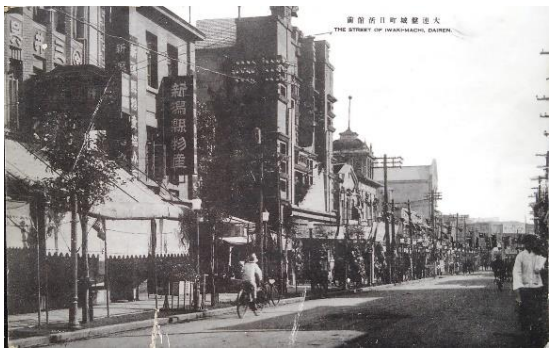


大連 70-1（参考）。大連神社・西本願寺（『大連市案内図』第 19 図）

大連 71「大連の沙河口神社」。大正 3 年 10 月の創建、西部の霞町にあり、路面電車道を隔てて南西には、沙河口図書館・消費組合・東本願寺・テニスコートなどがあった。

大連 71-1（参考）　大連沙河口神社。沙河口図書館・消費組合・東本願寺などがあった（『大連市案内図』53 図）。

大連 72「大連常盤町の盛観」。大連駅から南に行くと常盤橋、常盤町はそこから西に延びる。



大連 73「大連常盤町日活館前」。隣に新潟県物産紹介所の看板。浪華通りから常盤町に入った東側にある。

大連 74「大連一の繁華街、浪速町通」。左手に大阪屋號書店が見える。

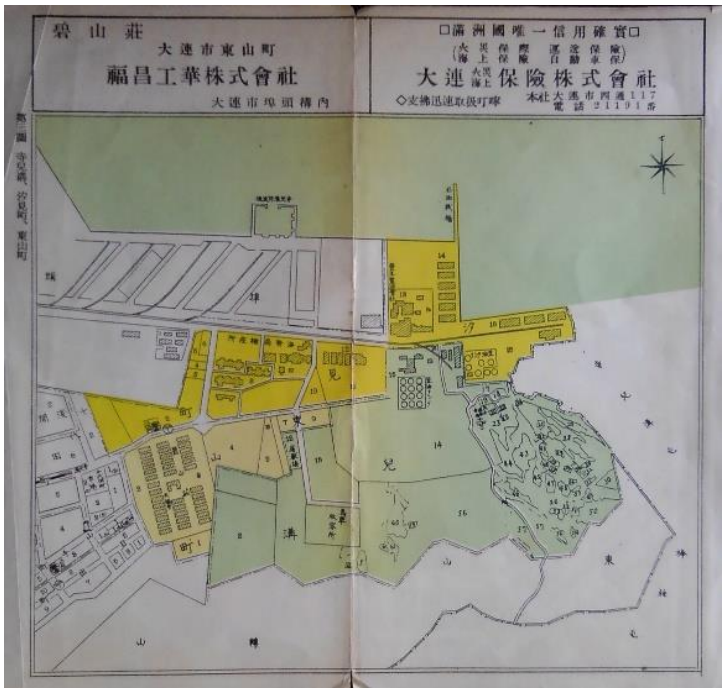
大連 75「大連第一の商店街、浪速町通りの盛観」。浪速通りは遼東ホテルの北を東西に走る通りである。

大連 76「大連浪速町三丁目」

大連 77「大連伏見台新道路」。遠景に満鉄宿舎が建ち並んでいる。

大連 78「(大連) 満洲人下級労働者の塒 (ねぐら)、碧山荘」。大連東の寺児溝（相生町）に相生由太郎が設けた港湾労働者用の宿舎で煉瓦造り平屋建てである。

大連 79「(大連) 満洲人下級労働者の塒 (ねぐら)、碧山荘」(2)。スタンプ「大連駅 昭和 8.8.5」。相生由太郎はこの地に埠頭倶楽部を置き、図書部はじめ談話部・運動部など福祉施設を設置した（拙著『戦前期外地活動図書館職員人名辞書』の「相生由太郎」の項)。

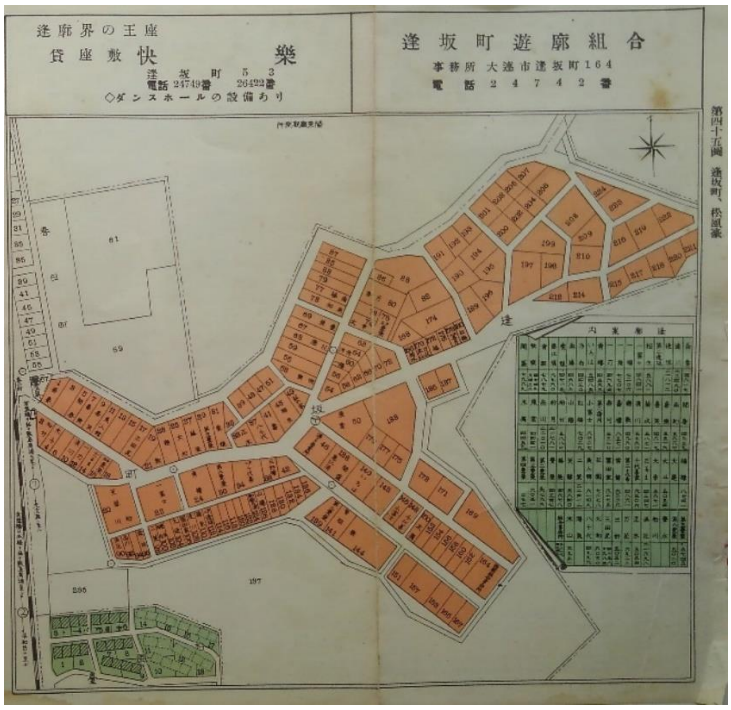


大連 79-1（参考） 寺児溝（相生町）の碧山荘（『大連市案内圖』第 3 圖)。

大連 80「大連 中華民の雑踏せる小崗子大街」。西崗子（小崗子）は電気遊園の西、関東庁北にひろがる中国人街。西崗子・東崗子を合併して小崗子となったのでそれぞれの地名は混在している。ここには天后聖母関帝観世音財神火神龍王の諸神諸仙の合祀廟もあった。なお橋立町には「小盗兒市場」といわれる露天市場があった（『大連市案内図』34 図）。松原一枝『幻の大連』によれば、小崗子付近の日本人の家でよく洗濯物が盗まれ、その家のひとは、またかと思い、小崗子の市場に行けば必ずと言ってよいほど売品となっていて、「これはうちのだ」というと「明白」といって返してくれる」との由である。
』

大連 81「大連老虎灘街道」。老虎灘は大連南東部、海に面した景勝地で漁業も盛んだった。

大連 82「大連西崗子の遊里得勝街」「大連の遊里逢阪町」。得勝街は西崗街通りの二つ南。逢阪（坂）町は常盤橋から南、東西本願寺の若草山の裏側にあたる。逢坂町遊廓組合があった。



大連 82-1 逢坂町遊廓。右の「逢廓案内」には 61 軒ほどの遊廓の名が記される (『大連市案内図』第 45 図)。

大連 83「沙河口遊園地及小学校の景」。この沙河口駅南方の小学校に図書閲覧場が設置されてあった。

大連 84「長汀曲浦の美観 郊外星ヶ浦海岸」。大連市西部の海水浴場。

大連 85「大連の名所星ヶ浦海水浴場」。明治 44 年に路面電車星ヶ浦線が開通し多くの人が訪れた。

大連 86「大連ノ名所星ヶ浦後藤伯の銅像」。満鉄総裁後藤新平の銅像が建っていた。

大連 87「櫻花咲き匂ふ麗はしの星ヶ浦公園」。ここには大連 31 の星ケ浦ヤマトホテルがあった。

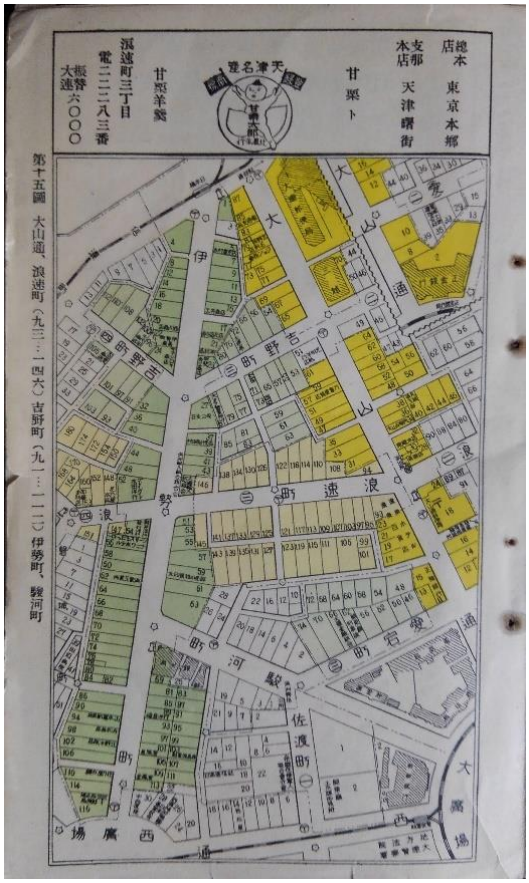
大連 88「大連 満鉄花電車」。大連の路面電車は満鉄子会社の大連都市交通により運営されていた。（写真掲出せず）

大連 89　・注文票「カメラの樫村洋行 小売部 大連市浪速町伊勢町角」

・写真入れ袋「大連光洋写真館」

・写真入れ袋「大連光洋写真館」「徳永様 12 年 8 月 8 日」

・戦地の写真 4 葉



大連 89-1（参考） 大連市浪速町伊勢町南西の角に樫村洋行の店がみえる。右の浪速町大山通り南西角に遼東ホテルもある（『大連案内図』第 15 圖）。

大連 90「沙河口工場事務所」。当時は工場区で満鉄沙河口工場があった。